

言い換えれば、被写体との距離が接近するほどピントの合う範囲が狭くなり、遠くなればなるほどピントの合う範囲が深くなるってなわけだな。

まあ、頭でゴチャゴチャ考えるよりも、実際に試してごらん。絞りを固定して、同じ被写体に向かって、約1メートル、3メートル、6メートルで写すと、はつきりする。絞りも、f4、f8、f16と、いろいろやると面白くなる。その際、データをとっておくと、後々便利だな」。

熊さん

「ヘネー。いろいろあるんだ。近づきゃ、よりボケるってか」。

御隠居

「まだある。同じ絞り値、同じシャッター速度でも、標準の50ミリよりゃあ100ミリのほうが、100ミリよりゃあ、200ミリのほうが被写体の前後はよくボケる。

つまり、望遠レンズのほうがバックの処理はしやすくなるってえわけだな。

望遠レンズってえと、とかく遠くのを引き寄せるためにあると思ってる人が多いけれども、圧縮効果、立ち上がり効果など、いろんな使い方ができるんだ。

しかし、望遠レンズは開放f値が暗え上にピントの合う範囲が狭く、ピント合わせにゃあ気をつけなきゃならねえ。そんでまた、ブレやすいときている。三脚の併用が理想だが、特に手持ちの場合にゃあ、250分の1秒や500分の1秒、それに1000分の1秒など、シャッター速度を高めセッティングして、しっかりとホールドして使う必要があるな。まっ、これも他のレンズと比較しながら実際に撮影すると、初めて自分のものになると思うがな……。とにかく、望遠レンズってえのは、ただ単なる引き寄せレンズじゃねえってこった」。

熊さん

「ヘネー、遠くのもんが近くに見えるってんで、それだけで、あっしら喜んでたんですけどねえ。

ピントの合う範囲は浅えくせに、どうして、使いこなしは奥深けえもんだ。

で、御隠居、圧縮効果、立ち上がり効果ってえのは、いってえ、どんなもんなんです？」。

御隠居

「……ちよいと横道に逸れちまうなあ……。まあ、しごく簡単に言っちゃまうとな……。

圧縮効果ってえのは、主要な被写体が立体感をなくしてバックに貼り付いたってえか、くっついててえか、そんなふうに見える効果のことをいうんだ。だいたい道路とか鉄道とか、寺の瓦の線をうまく使ったとか……。あたしの知る限りじゃあ、連続した線を上手に活用した写真が多いようだな。で、立ち上がり効果ってえのはだな、遠景にズッシリとした重量を感じさせる被写体があって、それがグッと前に迫ってくるってえか、覆いかぶさるってえか、飛び出してきたきそうっつうか、そんな効果のことをいうんだ。林立して、何だか迫ってくる感じの高層ビル、奥から覆いかぶさってくるような寺院の門（前景との対比）、不気味に威圧する戦艦の正面写真（遠景の量感）ってなところかな。

何れにせよ、遠近感、立体感、間隔の無さを利用した、200ミリ以上の望遠レンズ特有の撮影技法なんだが、何をどう撮りたいかを頭の中でキチンと整理し、撮影場所を念入りに選んでアタックしねえと、表面的で薄っぺらな写真になっちゃうねえ」。